

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数は3題で変わらず、総ページ数(12ページから12ページ)と設問の数(22問から22問)も変わらない。論述問題の数(7題から4題)と計算過程を記述する問題の数(5題から4題)はやや減少したが、全体としての分量はあまり変化がない。

取り組みやすい設問が増え、思考力を要する問題や煩雑な計算問題が減ったため、全体としては昨年よりやや易しかった。

出題の特徴や昨年との変更点

目新しいテーマや題材がよく出題される。本年では**1**のPFAS、**3**のう蝕(虫歯)の化学が該当する。計算問題では導出過程を書く必要があり、また、論述問題も多く出題される。

その他トピックス

前述のとおり**1**でPFAS、**3**でう蝕(虫歯)の化学が題材として扱われたが、難しい内容のものではなく、**3**でフィッシャー投影式(記載のない教科書もある)の知識を前提とする設問が含まれていたことを除くと、多くの設問は取り組みやすかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述, 選択 計算, 論述	無機 理論 有機	化学	フッ素 フッ素の単体, フッ化水素 フッ化ナトリウムの結晶構造 ジアンミン銀(I)フッ化物 PTFE(ポリテトラフルオロエチレン) PFAS(ペルフルオロアルキル化合物および ポリフルオロアルキル化合物)	やや易
2	記述, 選択 計算, 論述	無機 理論 有機	化学	金・銀・銅 結晶構造, 金属の展性・延性, 王水 黄銅と青銅, 銅の電解精錬 銀鏡反応, フェーリング液の還元 塩化銀の溶解平衡と錯イオン化の平衡	やや易
3	記述, 選択 計算, 論述	理論 有機	化学基礎 化学	う蝕(虫歯)の化学 糖類 ヒドロキシアパタイト キシリトールとその定量(ヨウ素滴定)	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

ここ数年は標準的なレベルの問題を中心に出题されているが、実験データを基に考察して解答する問題や受験生にとっては見慣れない物質や現象をテーマにした問題が多く出題されるので、標準的な問題を確実に解ける学力を身に付けるとともに、「考える力」を養う訓練を心がけること。